

医療における社会・行動科学

責任者・コーディネーター	人間科学科心理学・行動科学分野 香川 由美 助教		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	2	区分・時間数	講義 16 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学修方針（講義概要等）

現代における重大な健康問題である慢性疾患の発生メカニズムは、特定の細菌や化学物質など単一のものでは説明がつけにくい。慢性疾患が「生活習慣病」や「環境病」といわれるように、その発生メカニズムには、健康にとって問題となる望ましくない生活や労働の諸条件、習慣、行動、さらには環境などが直接的にあるいは媒介的に関わっている。人間の行動が疾患を作り出すのならば、人間が健康のために良い行動（保健行動）を選択して実行するために必要な要因を探り、人間の行動を予測・制御する方法を科学する必要がある。行動科学はそれを行う。

本講義では、人間が健康の保持・増進・回復を目的として行う保健行動に関わる社会的要因、文化的要因、心理的要因について概説する。また、現在、医療の現場で用いられている「人間が自らの意思で行動変容できるように支援する」行動科学の理論とモデルを紹介する。医学的な知識に加えて行動科学の基礎理論を学び、人間の行動を科学的に捉える基礎知識を会得することは、医療現場において患者の課題についてロジックを立てて理解し、効果的にサポートすることに役立つ。また、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、コメディカルが共通の行動科学理論を理解することは、チーム医療を効果的に実施する上で極めて重要である。

この科目の学習内容は、1年後期に履修する医療面接の基礎、3年前期に履修する4学部合同多職種連携教育科目チーム医療リテラシー、4年前期に履修する医療倫理とヒューマニズム、における応用的思考能力を形成するための基盤になるとなる。

行動科学モデルを種々の場面で応用するための基礎を修得することを期待する。

・教育成果（アウトカム）

人間の行動や意思決定に関わる社会的要因、文化要因、心理的要因、およびそれら要因間の相互作用に関する知識を会得し、行動科学理論の医療への応用方法を理解することにより、医療人として患者と対応する際に、患者の課題を理解し、効果的に関わる方法を選択できるようにする。

（ディプロマ・ポリシー：1,3,4,5）

・到達目標（SBO）

1. 医療における行動科学の役割を説明できる。（☆）
2. 社会、文化、心理的要因により健康観が異なることを説明できる。（34, 487）
3. 生活習慣や環境と健康の関連について説明できる。（491, 496）
4. 保健行動の実行を支える諸条件を列挙できる。（68）
5. ストレスとコーピングについて説明できる。（☆）
6. 保健行動に関する主要な行動科学モデルを説明できる。（☆）
7. 健康に関わるエンパワーメントとライフスキルについて説明できる。（☆）
8. ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーションについて説明できる。（☆, 34, 50, 36）

9. 行動科学モデルの、個人、集団、医療など、種々の場面への汎用性を説明できる。(☆, 50, 51)

・ 講義日程

(矢) 西 106 1-F 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/22	月	4	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>行動科学と健康</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動科学の学問的背景について説明できる。 2. 医療における行動科学の役割を説明できる。 3. さまざまな健康観について説明できる。 4. 健康教育の歴史を概説できる。 <p>【双方向授業】【ICT (WebClass)】 事前学修：健康とはどのような状態をいうのか自分の考えをまとめておく。 事後学修：講義内容を復習し、WebClass の理解度チェックに取り組む。</p>
5/2	木	4	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>健康と病気に関わる諸要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活習慣と健康の関連について説明できる。 2. 環境と健康の関連について説明できる。 3. ソーシャルサポート、ソーシャルキャピタルの健康への関わりを説明できる。 4. 社会経済的格差と健康の関りについて説明できる。 <p>【双方向授業】【ICT (WebClass)】 事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 事後学修：講義内容を復習し、WebClass の理解度チェックに取り組む。</p>
5/20	月	4	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>保健行動論(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健行動の種類を説明できる。 2. 自己効力感について説明できる。 4. ストレスの原因と評価について説明できる。 5. コーピングの種類と方法について説明できる。 <p>【双方向授業】【ICT (WebClass)】 事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 事後学修：講義内容を復習し、WebClass の理解度チェックに取り組む。</p>

5/27	月	4	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>保健行動論(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.保健行動に関わる社会的要因について説明できる。 2.保健行動に関わる心理的要因について説明できる。 3.ヘルス・ビリーフ・モデルについて説明できる。 4.ローカス・オブ・コントロールについて説明できる。 <p>【双方向授業】【ICT (WebClass)】 事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 事後学修：講義内容を復習し、WebClass の理解度チェックに取り組む。</p>
6/3	月	4	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>保健行動論(3)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.感情状態と意志決定の関わりについて説明できる。 2.認知バイアスについて説明できる。 3.計画的行動理論について説明できる。 4.トランスセオレティカル・モデルについて説明できる。 <p>【双方向授業】【ICT (WebClass)】 事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 事後学修：講義内容を復習し、WebClass の理解度チェックに取り組む。</p>
6/10	月	4	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>総合的協働型健康づくり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.プライマリーヘルスケアとヘルスプロモーションについて説明できる。 2.プリシード・フレームワークについて説明できる。 3.プリシード・プロシード・モデルについて説明できる。 4.QOL の種類と評価について説明できる。 5.ナッジについて説明できる。 <p>【双方向授業】【ICT (WebClass)】 事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 事後学修：講義内容を復習し、WebClass の理解度チェックに取り組む。</p>

6/19	水	4	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>健康に関わるエンパワーメントとライフスキル</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションにおけるエンパワーメント教育の役割について説明できる。 2. WHO の定義するライフスキルを列挙できる。 3. 代表的なライフスキル教育について説明できる。 <p>【双方向授業】【ICT (WebClass)】 事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 事後学修：講義内容を復習し、WebClass の理解度チェックに取り組む。</p>
6/26	水	4	心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスリテラシーの定義について説明できる。 2. ヘルスリテラシーの種類を列挙できる。 3. ヘルスリテラシーの健康への影響について説明できる。 4. ヘルスコミュニケーションについて説明できる。 <p>【双方向授業】【ICT (WebClass)】 事前学修：講義で取り上げる内容に関わるキーワードについて調べまとめておく。 事後学修：講義内容を復習し、WebClass の理解度チェックに取り組む。また、これまでの講義内容を総復習して、WebClass の確認テストに取り組む。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	行動科学－健康づくりのための理論と応用 改訂第2版	畑 栄一、土井 由利子 編集	南江堂	2009
参	健康行動学：その理論、研究、実践の最新動向	木原雅子ほか（訳）	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2018

参	健康行動理論による研究と実践	日本健康教育学会編	医学書院	2019
---	----------------	-----------	------	------

・成績評価方法

総括評価：前期定期試験成績（80%）、レポート（10%）、確認テスト成績（10%）で評価する。レポート課題は講義時に評価基準と共に提示し、基準に基づいて評価する。
 形成評価：講義毎に理解度チェックを WebClass で実施し、理解度、到達度を確認する。結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

・特記事項・その他

本科目では、一般的な講義に加えて双方向授業を適宜取り入れて課題に取り組む。講義で取り上げた課題については、講義内で解説する。事後学修として、各回講義の学修内容について理解度チェックを行い、WebClass に提出する。各問題の正答とポイントは WebClass にてフィードバックする。
 確認テストを最終日に WebClass で実施する。

事前学修：シラバスに記載されている次回の講義内容を確認し、授業で取り上げる内容に関わるキーワードについて教科書等を用いて調べまわめておく。

事後学修：講義内容を復習したうえで理解度チェックを行い、理解が不十分であった事項については配布資料、教科書等を用いて理解を深める。

各コマに対して、事前・事後学修に 90 分以上を要する。更に、レポート作成と確認テスト準備に 5 時間程度、前期定期試験前には 12 時間程度の総復習の時間を確保する必要がある。

定期試験後にフィードバックとして補講等を実施する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型 PC(Microsoft Surface Pro)	1	講義資料の提示
講義	書面カメラ・DVD プレーヤセット	1	講義資料の提示
講義	デスクトップ型 PC (EPSON MR4800E)	1	講義資料の作成